



根底は「好き」だから

楊 雪
YANG XUE

日本人は厳しいと聞いた事がある。日本に来るまで、厳しい人と出逢ったことがなく、自分は幸運であると思っていた。「良薬口に苦し」「忠言は耳に逆らうも利あり」人はとかく、叱られるのが好きではないが、時には叱られる事は自分の成長へと繋がる。

一昨年の十月、会社の優しい部長のお迎えで、私達は初めて会社の扉を開いた。そこに待っていたのは私達の部署の課長だった。課長は親切に社内や寮の案内、説明をしてくれた。寮は綺麗で、設備も食材も充実をしており、私達は揃って「この会社は最高」と感嘆しながら、新生活が始まった。

しかし、私にとって最も厳しい生活の始まりだった。実は課長はとても厳しい人だった。組合の先生や実習生の先輩から、噂は聞いていた。勤務初日に「先輩に頼ってはいけない」と指示された。それは、三か月後に先輩は帰国してしまうからだ。全ての事に対し、課長と向き合わなければならない。私達にとって、それは大変な事だった。

仕事覚えられず、失敗すれば叱られるのは当然だ。でも課長は私の悪い癖や言動すらもすぐ見抜いた。同じ失敗を繰り返すと、何故かと詰問される。同僚に対しては、褒める事もあるが、私だけ褒められるどころか、笑顔さえ記憶にない。「覚える努力をしないのなら、中国に

帰れ」「瞳の中に素直な気持が見えない」とも言われた事もある。どうすればいいか、自分でもわからない。本当に辛い日々だった。課長は私のことが嫌いなのだと思い込んでいた。でもある時、不思議に感じた。課長は何度も何度も私を叱り、同じ事を根気よく教えてくれる。仲々手を離さないのは何故だろう。いつ飽きるかと心配しつつも、厳しくされるがまま後を着いて行くうちに、少し自分が変わってきたように感じていた。

そんなある日、課長は突然言った「貴女が一番成長した。とても素直になり、瞳が活々と輝いているよ」初めて褒められた。本当に嬉しかった。そして、今では信頼が要る仕事に就かせてもらえるようになった。

一年間半経って、今は以前のような悩みはなく、普通の生活になった。ふと、急に一年間の事を思い出し、課長に聞いてみたくなった。何故あの時、私の手を離さなかったのか、勇気を出して聞いてみた。課長は言った。「一目見た時から、貴女を真っ直ぐ、素直な子に変えたいと思った。素直な人はとても成長できるから、そうであって欲しいと願った。諦めなかったのは、愛おしくて、根底は好きだから、かな」その言葉で私の心は救われた。本当に嬉しくて、幸せなのに涙が止まらなかった。

この経験、この言葉は、私の今後の人生でずっと真っ直ぐ生きて行こうと頑張れる支えになるだろう。もし歪んでも曲っても、きっとこの経験を思い出して、真っ直ぐ前を向いて歩いていけると今確信している。

区	分	技能実習2号
国	籍	中国
職	種	プラスチック成形
実習実施機関		サンユー精密株式会社
監理団体		北陸対外事業協同組合